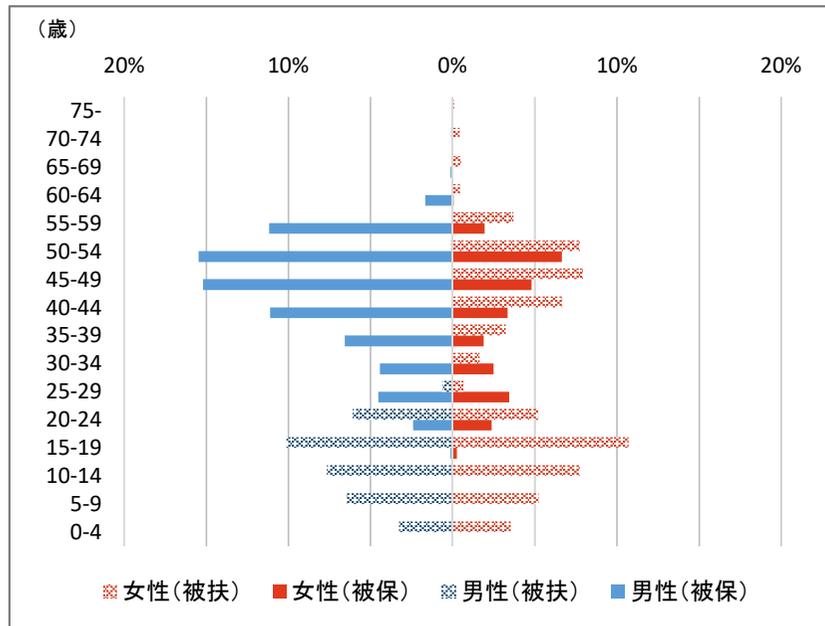


1. 基本情報

2018年2月2日作成

		(人)			
被保険者数	3,080				
	男性	2,240	(72.7%	平均年齢	45.3 歳)
	女性	840	(27.3%	平均年齢	41.3 歳)
被扶養者数	3,492				
合計	6,572				

図表1-1 年齢階級別人数割合（男女別）



図表1-2 年齢階級別人数（男女別）

						(人)
年齢(歳)	合計	男性(被保)	男性(被扶)	女性(被保)	女性(被扶)	
0-4	238	***	114	***	124	
5-9	408	***	225	***	183	
10-14	537	***	267	***	270	
15-19	739	4	353	8	374	
20-24	541	74	212	73	182	
25-29	289	139	21	106	23	
30-34	272	136	2	77	57	
35-39	373	202	0	58	113	
40-44	678	342	0	103	233	
45-49	894	468	1	148	277	
50-54	954	476	3	205	270	
55-59	534	344	1	60	129	
60-64	71	51	2	2	16	
65-69	23	4	1	0	18	
70-74	18	0	3	0	15	
75-	3	0	0	0	3	
合計	6,572	2,240	1,205	840	2,287	

〔使用データ〕

- 台帳データ : 2017年11月時点
- レセプトデータ : 2017年4月～2017年9月分
- 健診データ : 2014年度～2016年度分※
- 保健指導データ : 2014年度～2016年度分※

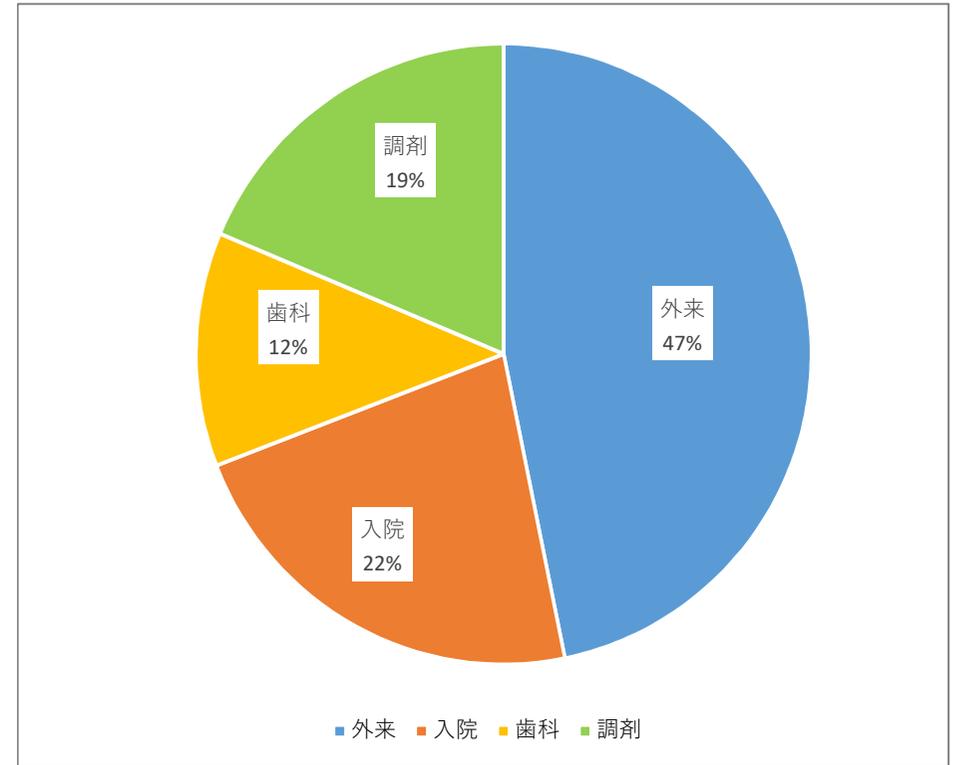
※健診・保健指導データは前パナソニック健康保険組合時の3事業所分（パナソニックヘルスケア㈱、パナソニックヘルスケアビジネスサポート㈱、パナソニックメディカルソリューションズ㈱）を集計したため参考値とする。

2. 医療費分析 (2017年)

図表2-1 総医療費と加入者1人当たりの医療費

(円)	
総医療費	472,105,890
加入者1人当たり医療費	71,836

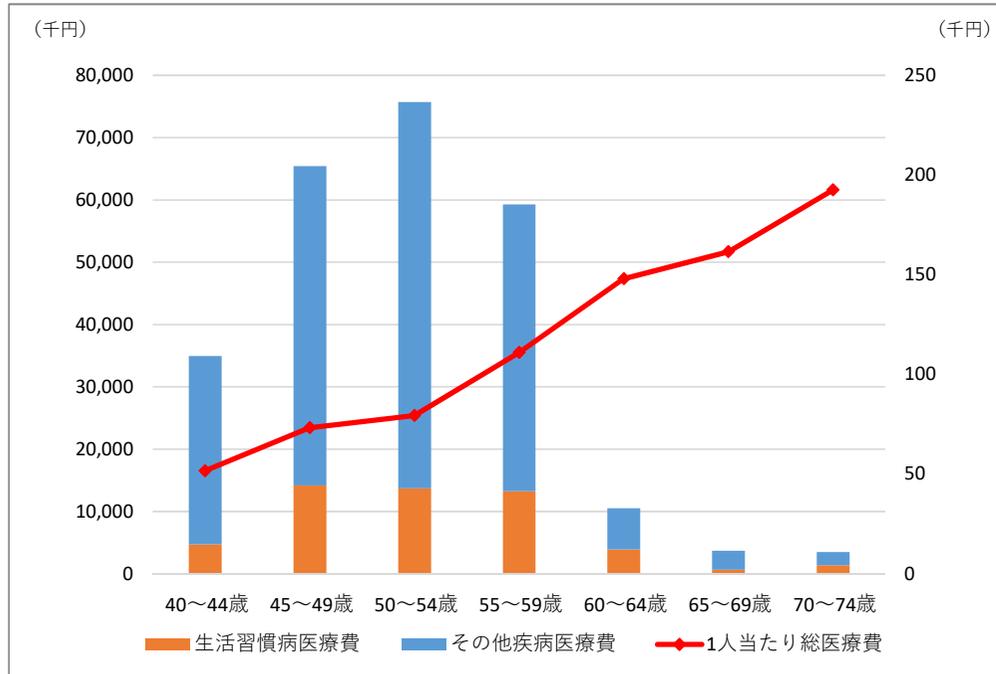
図表2-2 医療費種別の割合



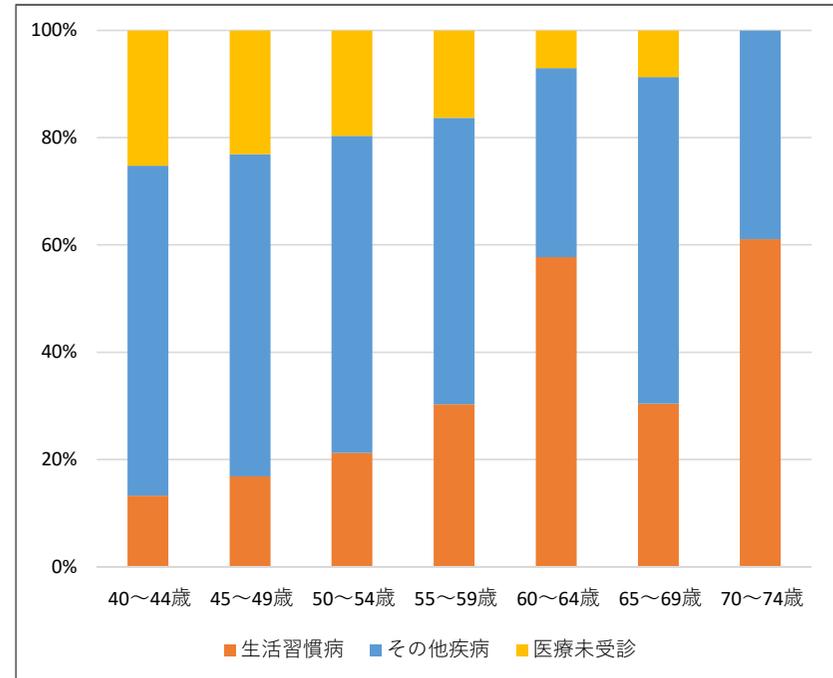
(千円)					
	外来	入院	歯科	調剤	合計
総医療費	221,006	105,477	57,503	88,120	472,106
割合	47%	22%	12%	19%	100%

2. 医療費分析 (2017年)

図表2-3 年齢階級別生活習慣病・その他疾病による加入者1人当たり医療費



図表2-4 年齢階級別受診構成



	40~44歳	45~49歳	50~54歳	55~59歳	60~64歳	65~69歳	70~74歳
1人当たり医療費 (生活習慣病)	7	16	14	25	55	28	77
1人当たり医療費 (その他疾患)	45	57	65	86	93	134	116
1人当たり総医療費	52	73	79	111	148	162	193
生活習慣病医療費	4,725	14,174	13,723	13,241	3,927	636	1,379
その他疾病医療費	30,259	51,280	62,012	46,047	6,582	3,081	2,086

	40~44歳	45~49歳	50~54歳	55~59歳	60~64歳	65~69歳	70~74歳
生活習慣病	13%	17%	21%	30%	58%	30%	61%
その他疾病	62%	60%	59%	53%	35%	61%	39%
医療未受診	25%	23%	20%	16%	7%	9%	0%
合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

図表2-1から2-4では医療費支出を年齢階級別と医療費種別で示した。

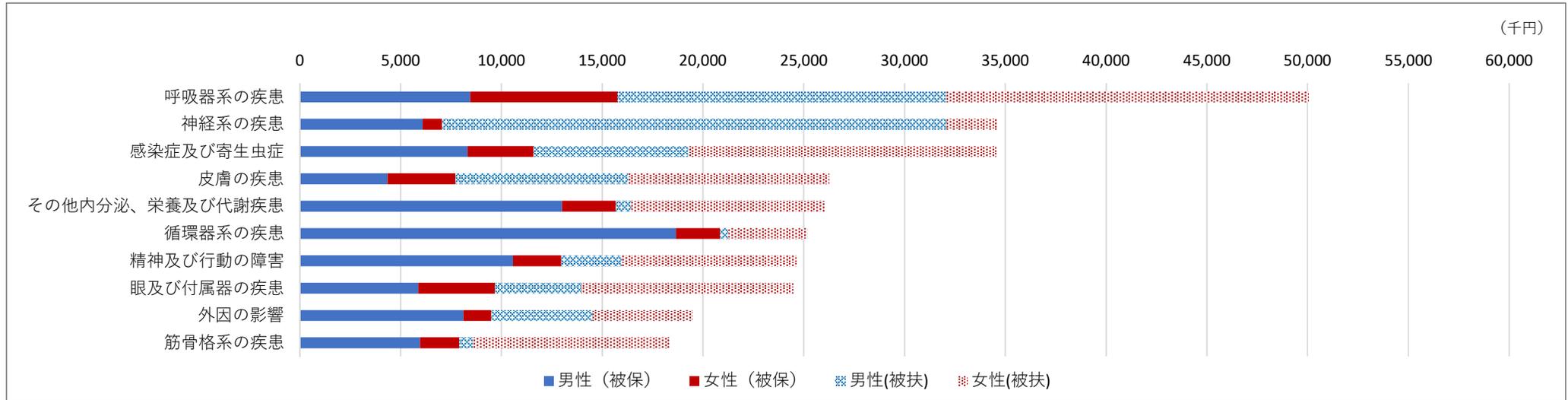
6か月間の医療費を用いて医療費の特性を見たところ、年齢と共に1人当たりの医療費は直線的に多くなる傾向を示した。

生活習慣病医療費の絶対値は人数の最も多い50~54歳が最も多かったが、総医療費に占める割合は年齢と共に多い傾向にあり、70歳代では60%を占めていた。

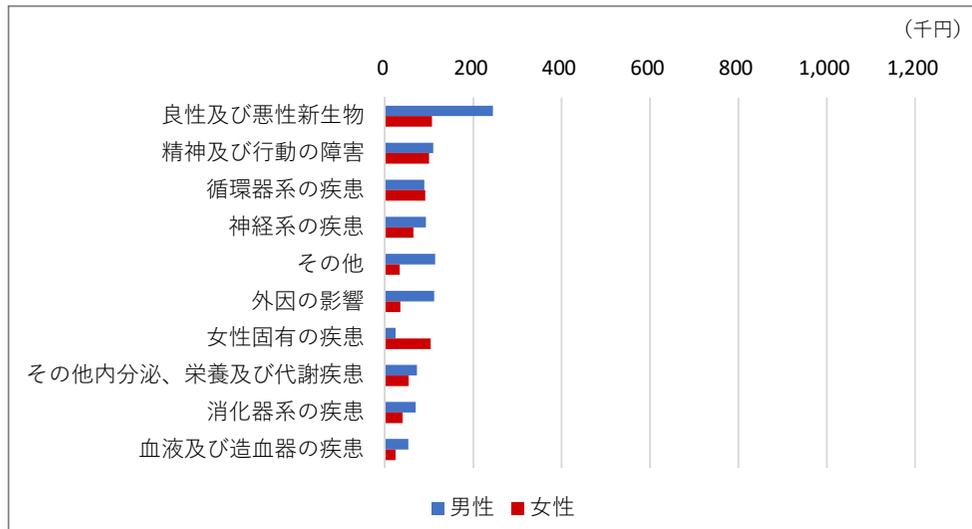
生活習慣病対策は若い世代の発症予防と共に、高齢者は合併症を発症する可能性があるため、合併症予防を働きかける必要があると考えられる。

3. 疾病別医療費分析 ①疾病大分類上位10位の医療費 (資格別) (2017年)

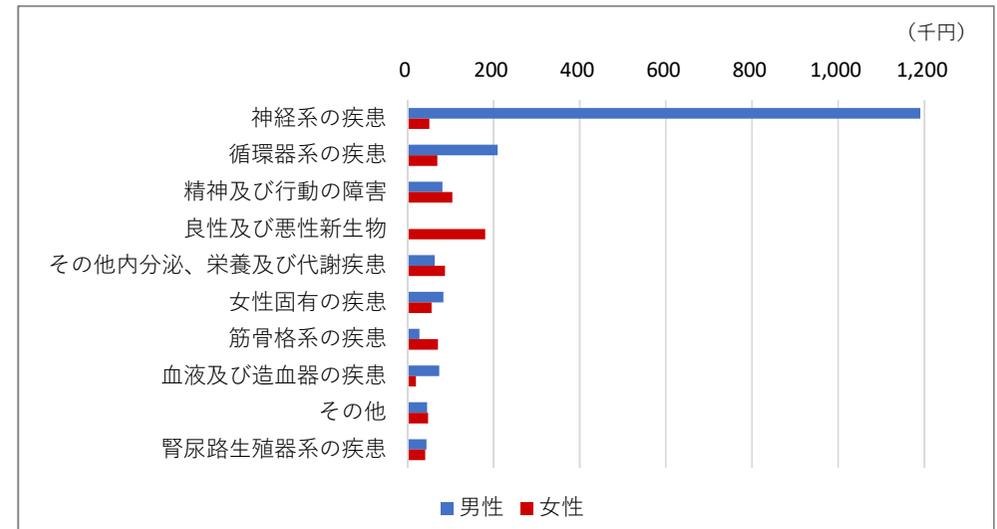
図表3-1 疾病大分類上位10位の医療費



図表3-2 1人当たり医療費 (被保険者)

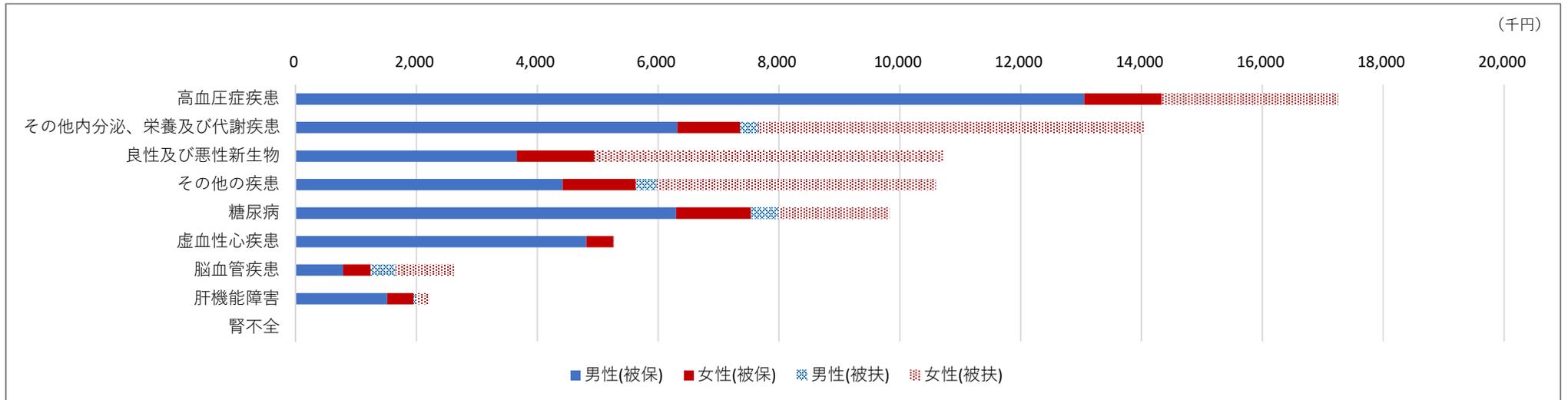


図表3-3 1人当たり医療費 (被扶養者)

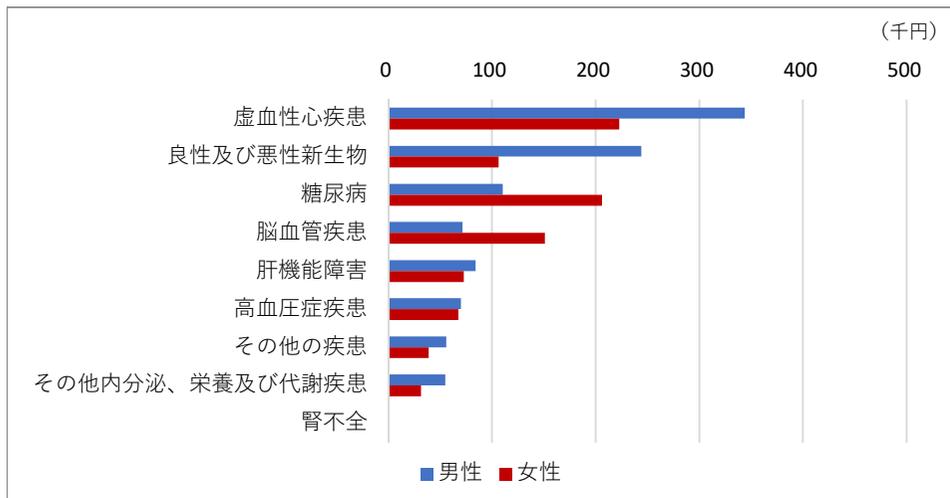


3. 疾病別医療費分析 ②生活習慣病医療費上位10位の医療費（資格別）（2017年）

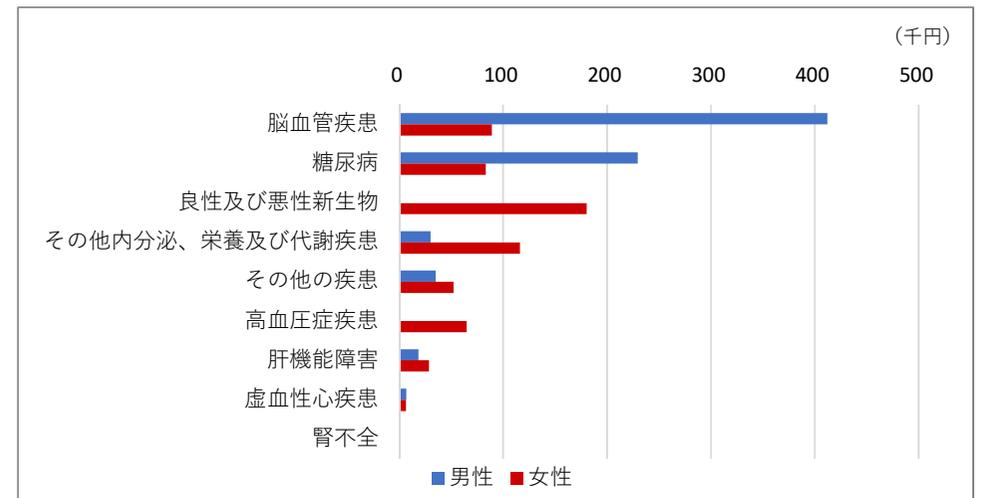
図表3-4 生活習慣病医療費上位10位の医療費



図表3-5 1人当たり医療費（被保険者）

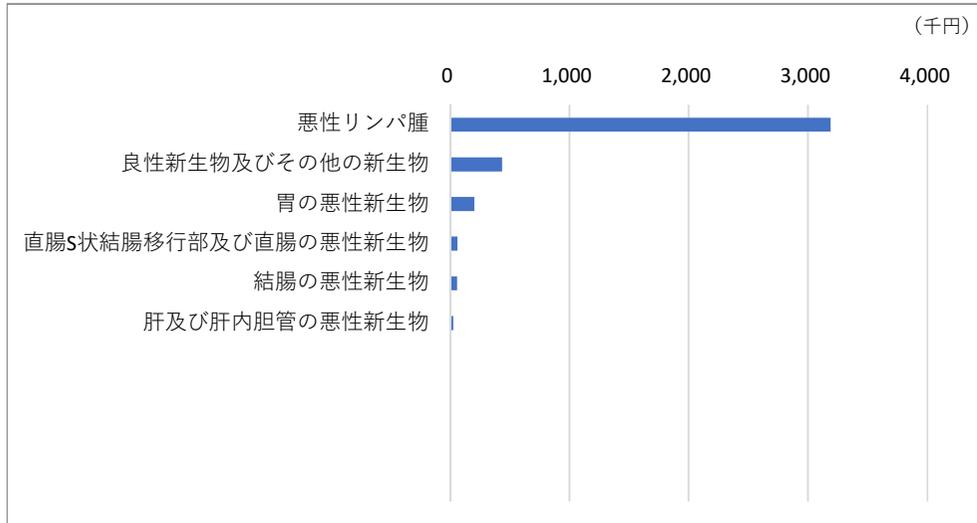


図表3-6 1人当たり医療費（被扶養者）

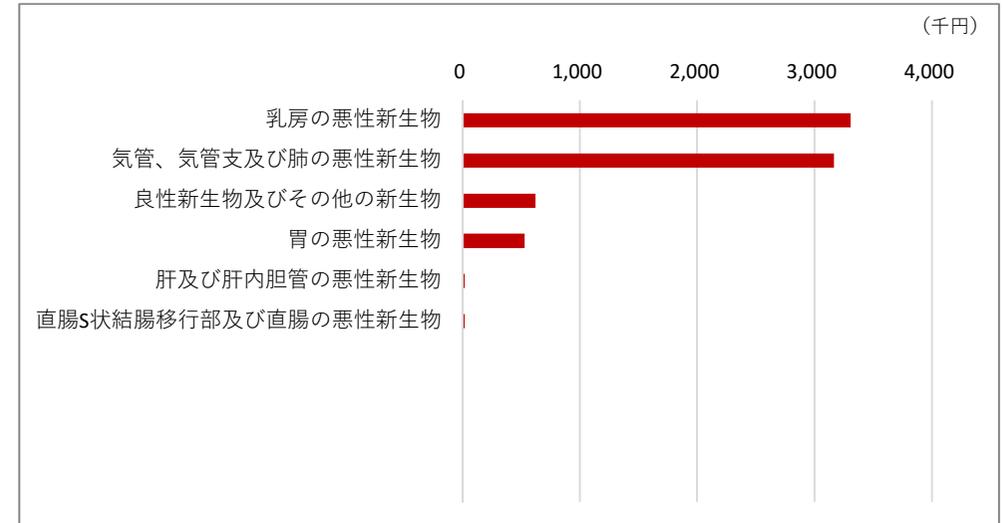


3. 疾病別医療費分析 ③悪性新生物総額医療費（男女別）（2017年）

図表3-7 悪性新生物総額医療費（男性）



図表3-8 悪性新生物総額医療費（女性）



※0円の場合は順位に含まない

図表3-1から3-8では、疾病別医療費の状況を示した。

疾病別医療費では呼吸器系が最も高いが、小児の医療費等が大きく関わっている可能性がある。

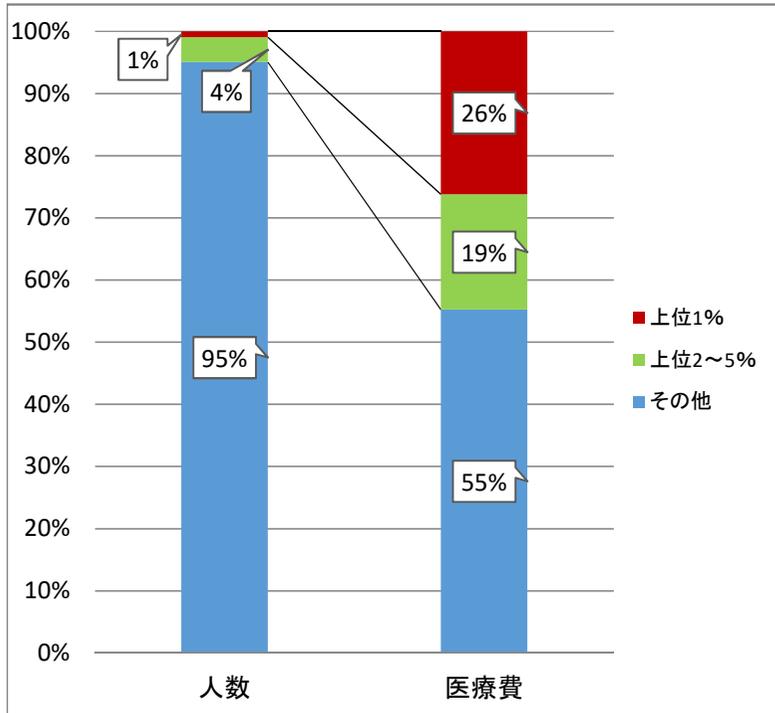
生活習慣病関連医療費では高血圧性疾患と内分泌、栄養および代謝疾患の医療費が多くなっている。

悪性新生物の医療費は男性では悪性リンパ腫が最も高額であった。女性では乳がん及び肺がんによる医療費支出が見られた。

これらの医療費データの集積期間が6か月と短期であることから、分析結果の適切な解釈を行うには、更に長期の集積を行う必要がある。

4. 高額医療費分析 (2017年)

図表4-1 医療費全体に占める高額医療費の人数と割合



	上位1%	上位2~5%	その他	合計
人数 (人)	62	260	6,250	6,572
割合 (%)	0.94%	3.96%	95.10%	100%
医療費 (千円)	123,853	87,547	260,706	472,106
割合 (%)	26.23%	18.54%	55.22%	100%

図表4-2 合計100万円以上の高額医療費支出者の疾病別内訳 (6か月間)

主病名	費用額	高額医療費支出者1人当たり	
		費用額	費用額
神経系の疾患	24,532,700		6,133,175
感染症及び寄生虫症	11,494,782		1,149,478
循環器系の疾患	6,961,222		1,392,244
良性及び悪性新生物	5,237,670		2,618,835
外因の影響	5,196,042		866,007
その他	5,160,842		2,580,421
呼吸器系の疾患	4,631,440		514,604
精神及び行動の障害	4,490,400		898,080
その他内分泌、栄養及び代謝疾患	4,439,154		1,109,789
皮膚の疾患	2,965,400		494,233
筋骨格系の疾患	1,447,160		289,432
消化器系の疾患	1,327,710		1,327,710
眼及び付属器の疾患	1,280,410		256,082
耳及び乳様突起の疾患	841,290		420,645
腎尿路生殖器系の疾患	650,900		216,967
血液及び造血器の疾患	0		0
女性固有の疾患	0		0

上位5%(合計)	
人数 (人)	322
割合 (%)	4.90%
医療費 (千円)	211,400
割合 (%)	44.78%

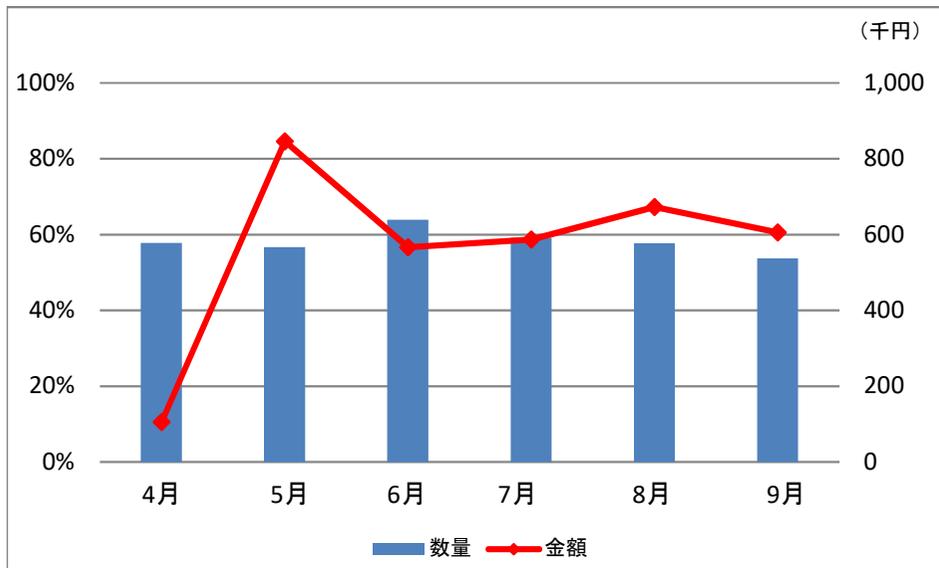
医療費を加入者の支出額順に並べ直して、医療費の多い順に支出額をまとめたのが図4-1である。上位1%の人が全体の医療費の26%を支出しており、上位5%では全体の医療費の約45%を支出していた。図表4-2は6か月間の集計結果から100万円以上医療費を支出した人を主病名別に示した。支出額では、神経系の疾患が最も多く、感染症がその次を占めていた。高額医療は様々な原因で起こるが、集計結果から予防可能な疾患を精査して、対策の根拠としたい。

5. 後発医薬品の調剤費分析 (2017年)

図表5-1 後発医薬品使用率と金額

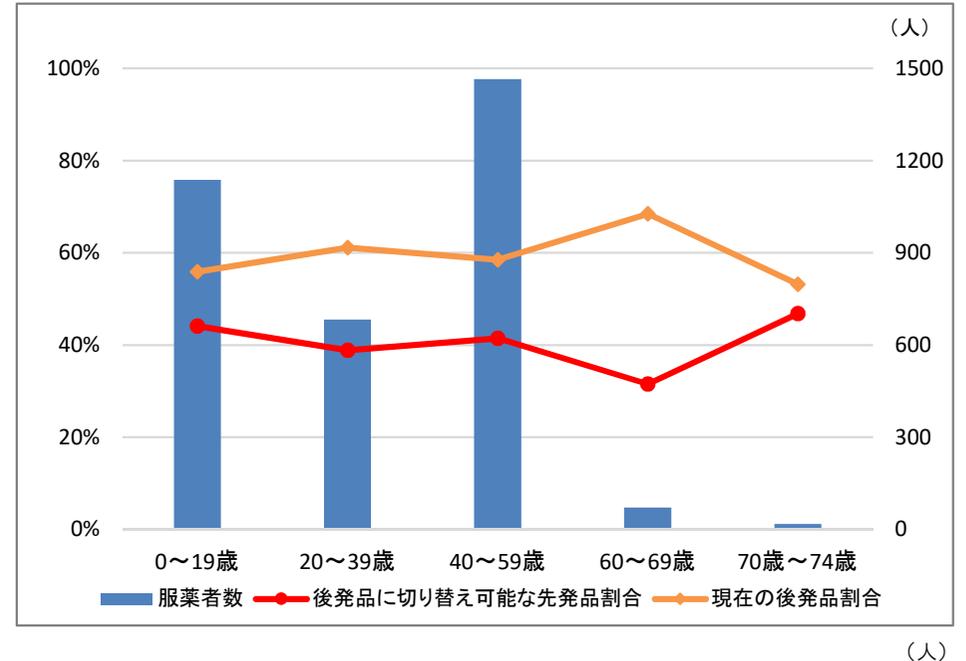
数量	金額
58.52%	33,842,980円

図表5-2 後発医薬品使用率推移（経月）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月
数量	57.75%	56.68%	63.85%	59.16%	57.67%	53.73%
金額	105	846	567	587	673	606

図表5-3 年齢別使用状況



	0~19歳	20~39歳	40~59歳	60~69歳	70歳~74歳
後発品に切り替え可能な先発品割合	44.1%	38.9%	41.5%	31.5%	46.8%
現在の後発品割合	55.9%	61.1%	58.5%	68.5%	53.2%
服薬者数	1137	683	1465	71	18

◆切り替え可能な先発品が全て後発品に切り替わった場合の削減金額

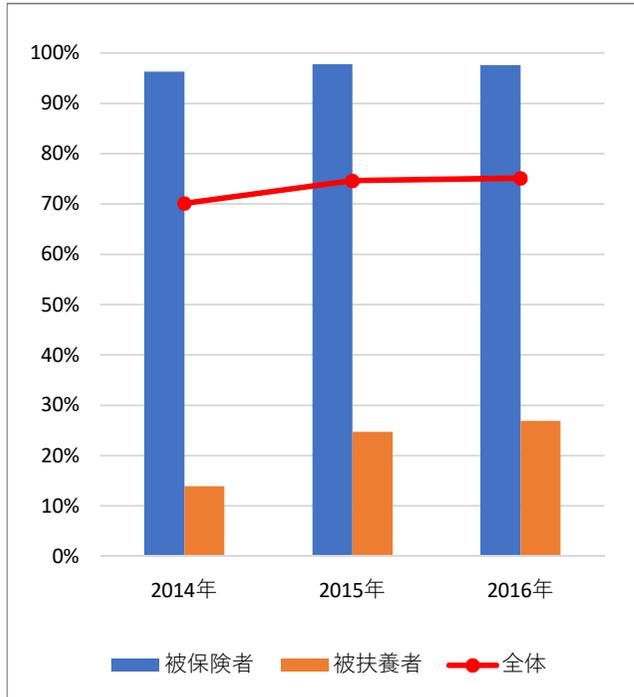
2,694,975 円

図表5-1から5-3では、後発医薬品の使用状況を6か月間の医療費集積結果を用いて計算した。後発品切り替え率は58%で国の定める値より低い傾向が見られた。6か月間で特に一定の傾向は見られなかった。年齢別に見ても一定の傾向は見られなかった。後発医薬品に切り替えることによる削減金額は6か月間で260万円に上ることから、積極的な対策が必要と考えられた。

6. 特定健康診査・特定保健指導の分析

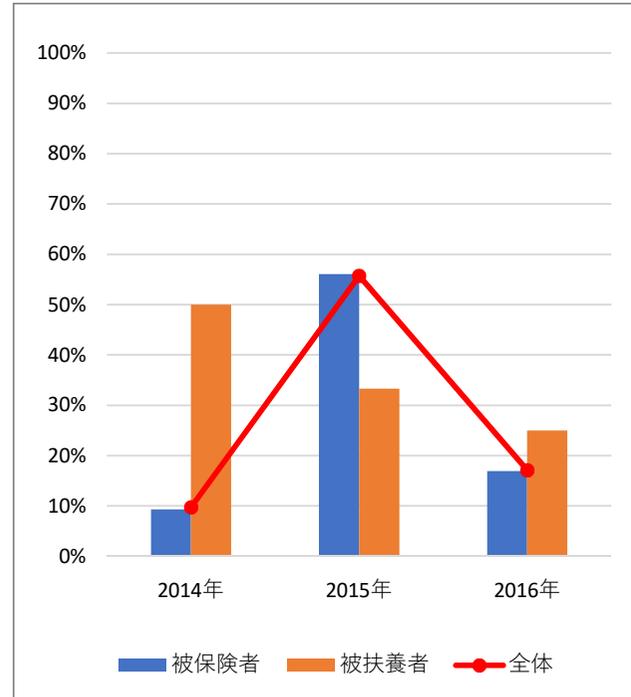
(2016年)

図表6-1 特定健診受診率推移



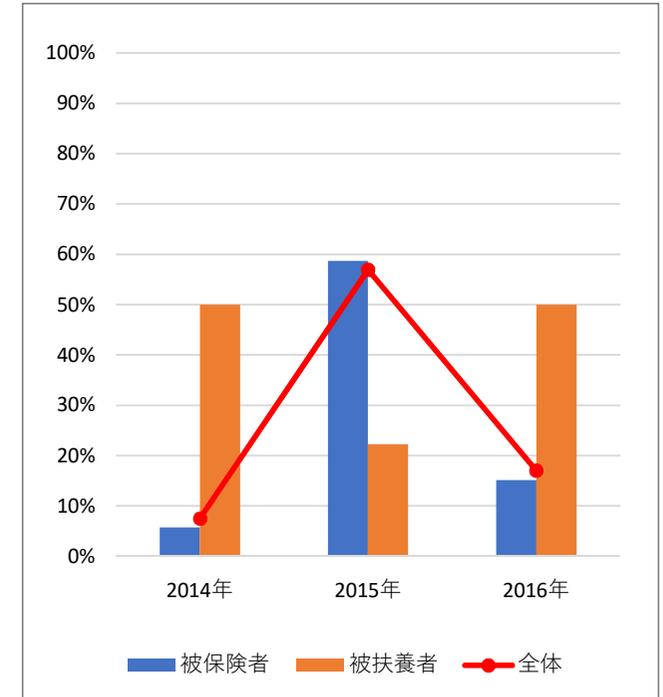
	2014年	2015年	2016年
被保険者	96.3%	97.8%	97.6%
被扶養者	13.9%	24.7%	26.9%
全体	70.1%	74.6%	75.1%

図表6-2 積極的支援実施率推移



	2014年	2015年	2016年
被保険者	9.3%	56.1%	16.9%
被扶養者	50.0%	33.3%	25.0%
全体	9.7%	55.7%	17.1%

図表6-3 動機づけ支援実施率推移



	2014年	2015年	2016年
被保険者	5.7%	58.7%	15.1%
被扶養者	50.0%	22.2%	50.0%
全体	7.5%	56.9%	17.0%

図表6-1から6-3では、前健保時の健診データを用いて受診率の状況を示した。(参考値)

特定健診は被保険者については95%以上の高い受診率となっている。

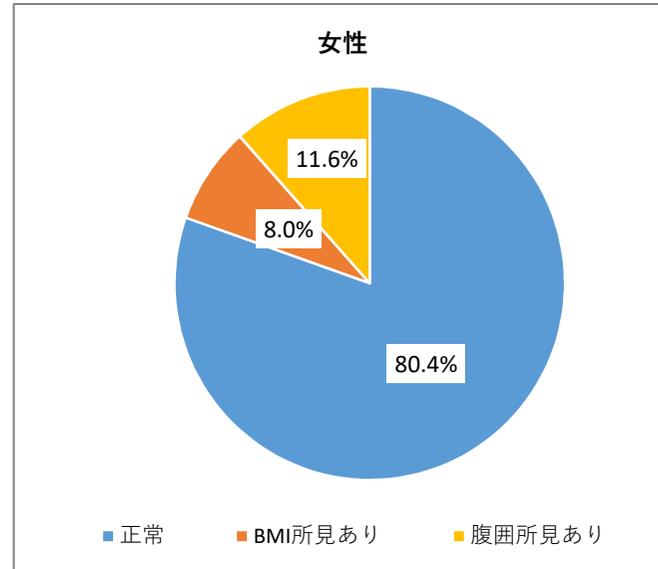
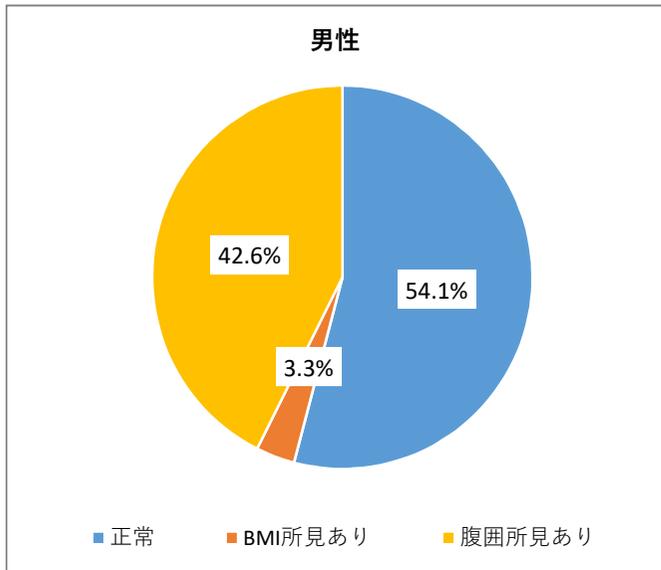
被扶養者の受診率は2014年から徐々に上昇傾向にあるが、2016年でも30%に届かない状況が続いている。今後、受診率を高めるための対策が重要となる。

特定保健指導では積極的支援、動機づけ支援共に2015年に高い実施率を得たが、2014年、2016年は20%以下となっている。

適切な実施率を得るための方策が必要である。

7. 健診結果 (2016年)

図表7-1 肥満項目別有所見率 (男女別)

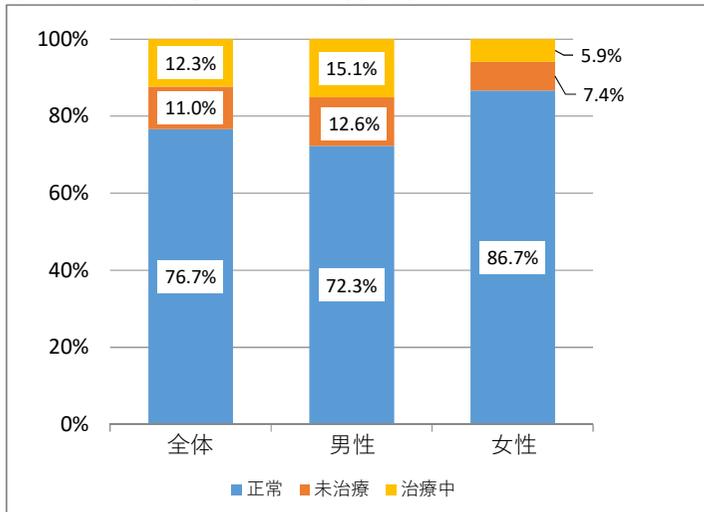


図表7-1では特定健診の結果から肥満項目別の有所見率を男女別に示した。
肥満者の割合は男性では46%で、女性では20%に留まっている。
女性の腹囲基準が90cm以上となっているため、軽度な腹部肥満が見逃されている可能性があることがわかった。

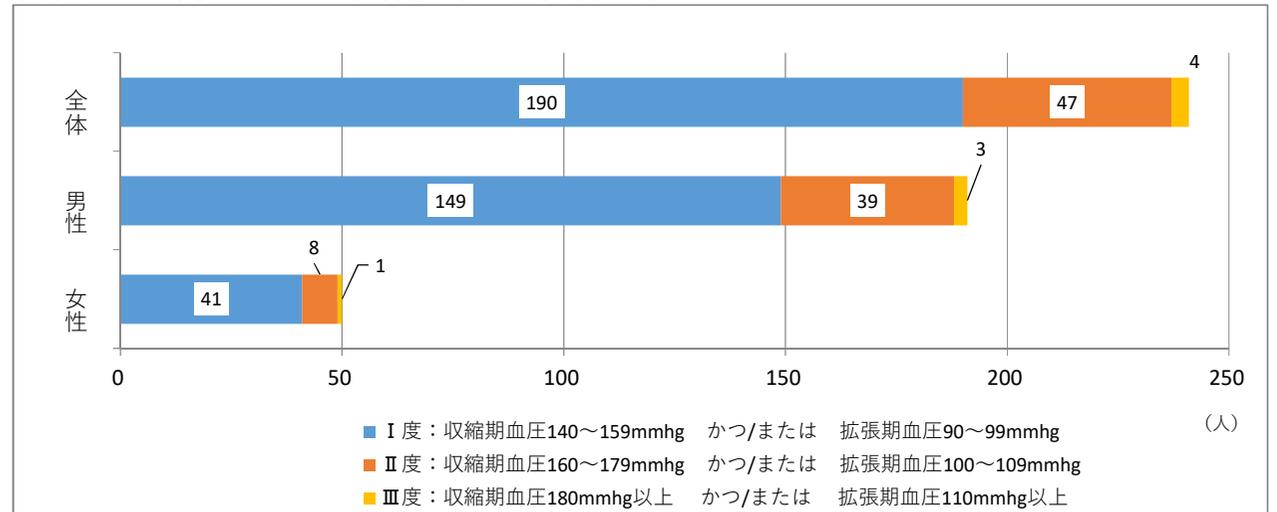
8. 重症化予防対策

(2016年)

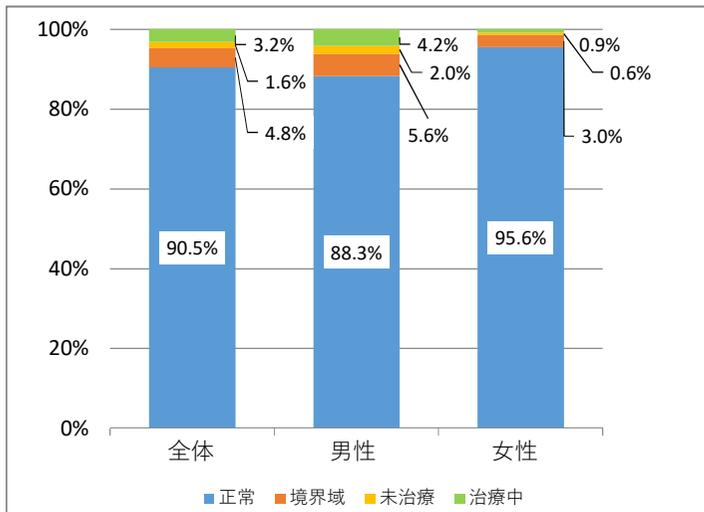
図表8-1 高血圧症の治療状況



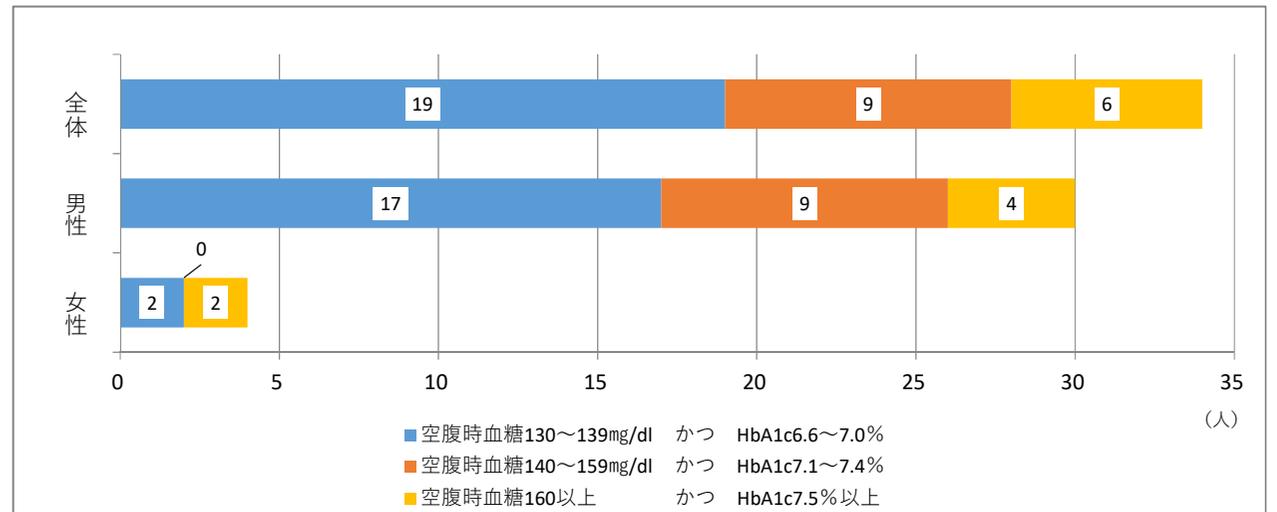
図表8-2 高血圧症の未治療者重症度別人数



図表8-3 糖尿病の治療状況



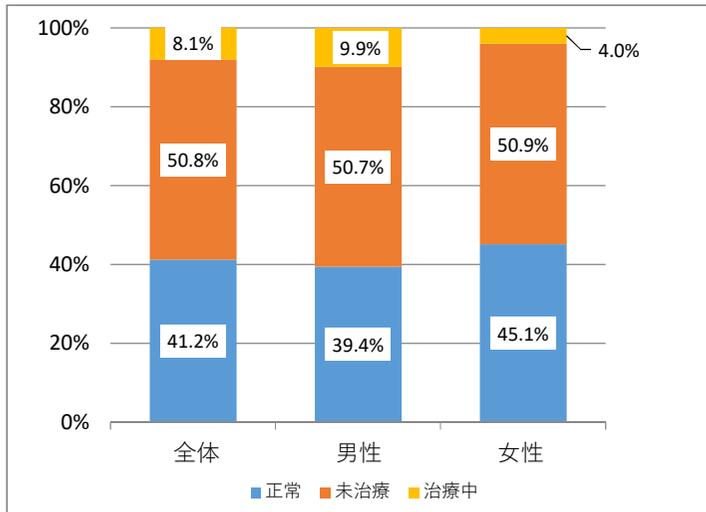
図表8-4 糖尿病の未治療者重症度別人数



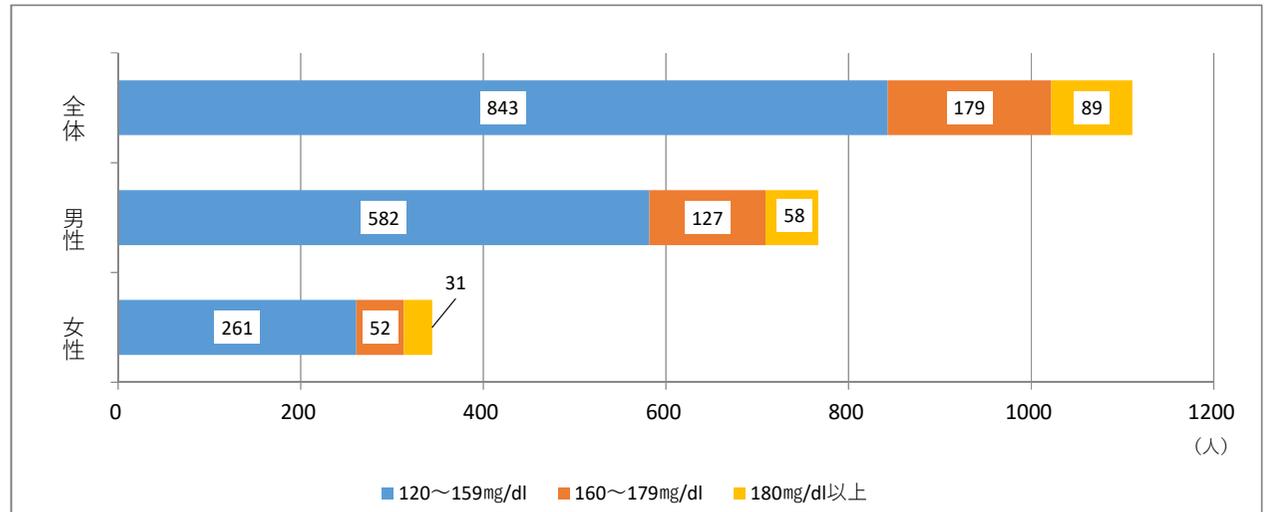
8. 重症化予防対策

(2016年)

図表8-5 高LDLコレステロール血症の治療状況



図表8-6 高LDLコレステロール血症の未治療者重症度別人数

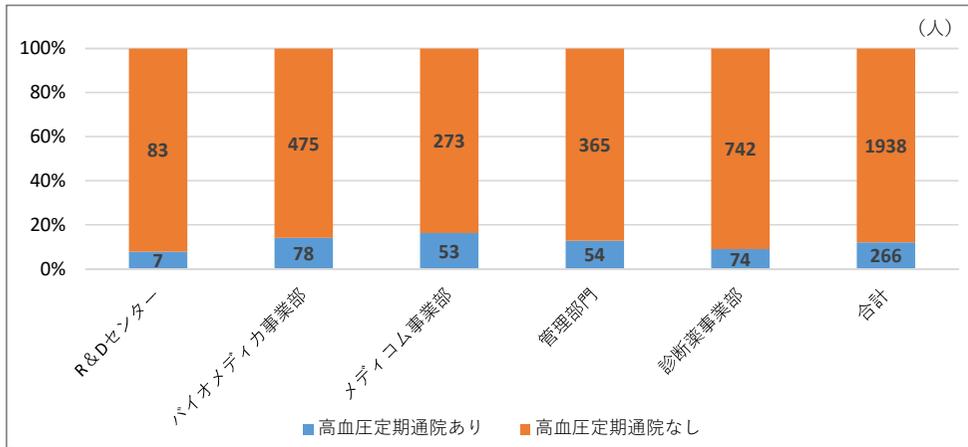


図表8-1から8-6では、高血圧症、糖尿病、高LDLコレステロール血症の治療状況と重症度別人数を示した。
 高血圧症のうち治療者の割合は53%に留まっており、未治療者のうち治療勧奨が重要なⅡ度以上が51名観察されている。
 糖尿病では治療者の割合が約70%と高いが、未治療者でHbA1c7.1%以上の人15名未治療の状態となっている。
 高LDLコレステロール血症では治療者の割合は約14%にとどまっている。未治療で最も高い値（180mg/dl以上）を示したのは男性で58名見られた。

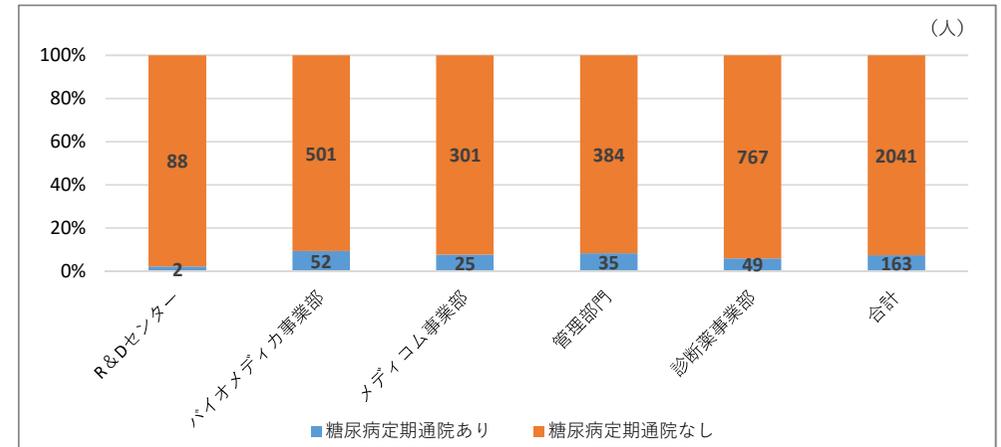
8. 重症化予防対策

(2017年)

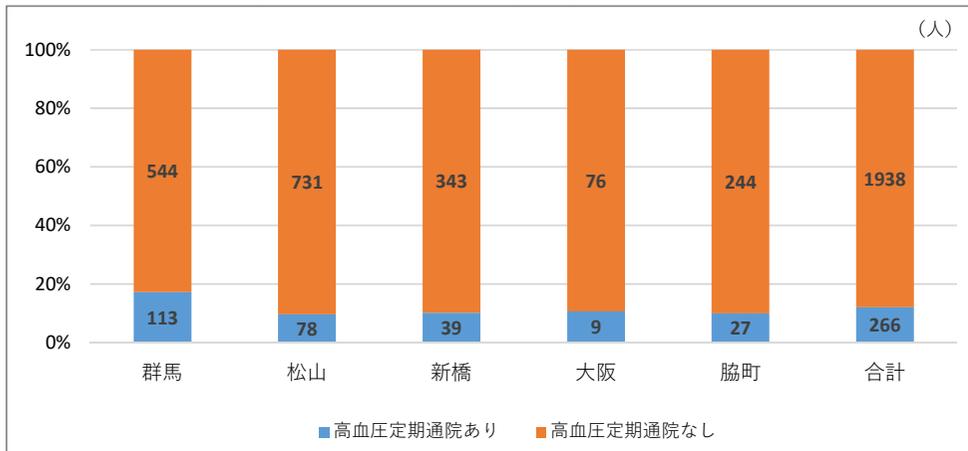
図表8-7 事業部別高血圧症の治療割合と人数



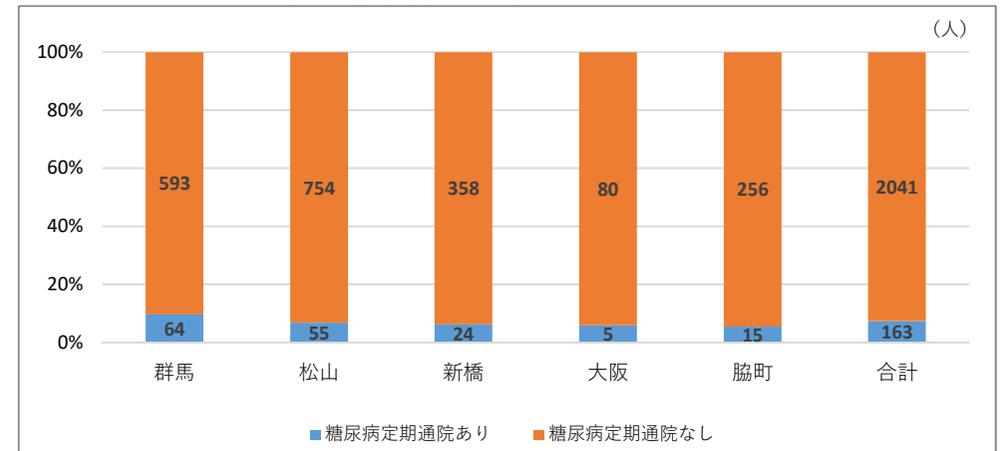
図表8-8 事業部別糖尿病の治療割合と人数



図表8-9 地区部別高血圧症の治療割合と人数



図表8-10 地区部別糖尿病の治療割合と人数



図表8-7、8-8では事業部別、図表8-9、8-10では地区別の高血圧症、糖尿病の定期通院の差について検討した。

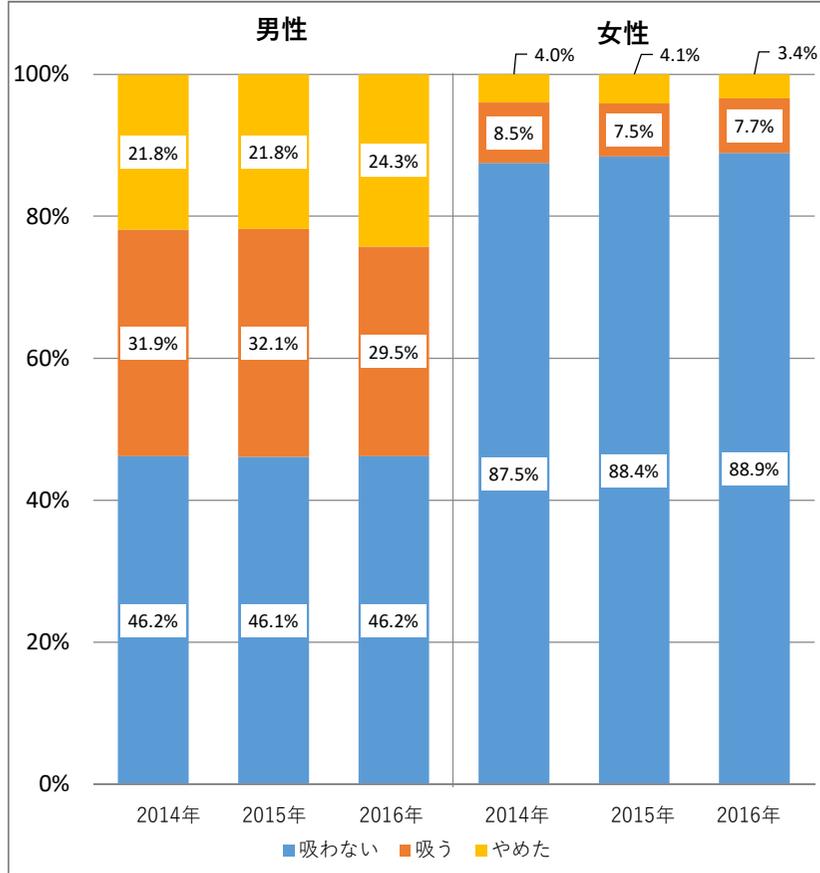
(定期通院：6か月間のうち、レセプトに該当疾病が2回以上あった人を抽出)

地区別は高血圧症、糖尿病のともに群馬（メディコム事業部、バイオメディカ事業部）で最も高く、診断薬事業部の治療割合はむしろ高い傾向が見られなかった。

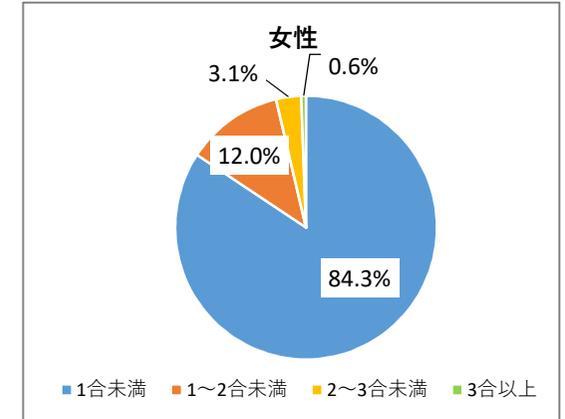
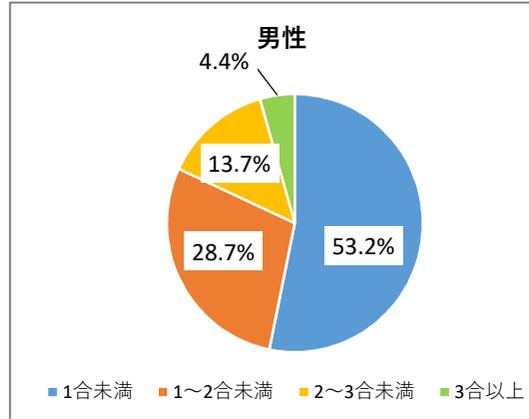
今後、健診情報と照合し高血圧症、糖尿病の所見のある者の治療割合を明らかにする必要がある。

9. 生活習慣の傾向（問診結果） （2016年）

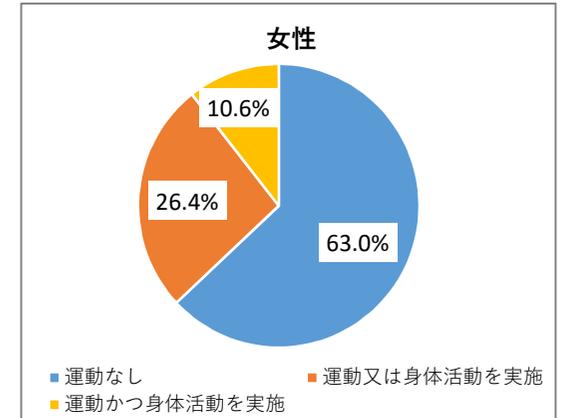
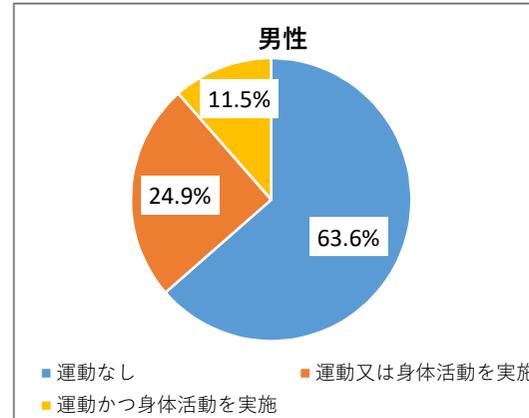
図表9-1 現在、たばこを習慣的に吸っている



図表9-2 飲酒日の1日当たりの飲酒量



図表9-3 運動習慣



図表9-1から9-3では、問診結果から喫煙、飲酒、運動習慣の傾向を示した。
 男性の喫煙習慣は30%前後であり平均的な値である。
 2016年にはやや低下しており、2016年に喫煙対策に取り組んだ成果を反映している可能性がある。
 多量飲酒者の割合では男性で3合以上飲む人が4.4%と低めで、女性は更に低かった。
 運動習慣のない人の割合も63%と平均的であった。

※運動習慣は問診「運動を1回30分以上、週2回以上、1年以上実施している」「歩行又は同等の身体活動を1日1時間以上実施している」の2項目の結果を使用して集計しています。